



自己改革進捗状況報告書

第一次自己改革プログラム (H29-R1)



JA 淡路日の出

自己改革プログラム取り組み状況について

(平成30年度 自己改革進捗状況報告書)

JA淡路日の出では、「持続可能な農業」と「豊かで暮らしやすい地域社会」を実現していくため、自己改革プログラムを策定し、「農業者所得の増大」「農業生産の拡大」「地域農業の活性化」を3つの基本目標とした取り組みを進めています。

実践3年目の最終年度を迎える中、平成30年度の取り組みと成果についてご報告します。

農業者所得の増大

消費者と生産者をつなぐ「御食菜采館」みけつさいさいかん

平成30年4月7日にオープンしましたJA農産物直売所「御食菜采館」は、農産物直売所出荷部会員も順調に増加し、年間売り上げ高も当初計画の120%を超えました。

「御食菜采館」では、お客様に喜ばれるイベントを企画するとともに、部会員との情報共有など、消費者と生産者をつなぐ直売所であることを常に目指して取り組んでいます。



成果指標	平成29年度(実績)	平成30年度(実績)	令和元年度(計画)
部会員数	130人	185人	250人
売上高	—	180,000千円	200,000千円

ブランド確立に向けた作物部会の活動

淡路島の農産物はブランド化が確立されつつありますが、ブランドとは消費者と生産者の信頼で築くものです。

そのため、農産物の品質向上と品質・規格の平準化に向け、栽培技術の確立と品質確保への意思統一を図るため、研修会での座談会や作物目慣らし会を開催しました。

また、いちじく部会においては、JAとともに助成事業を活用した販売促進資材を製作し、生産者・市場・小売店・関係機関が一体となったPR活動に取り組みました。



成果指標	平成29年度(実績)	平成30年度(実績)	令和元年度(計画)
研修会等 目慣らし会 販売促進 農協からの助成額	各支店で30回 作物別に5回 —	各支店で27回 作物別に16回 いちじくPR資材製作 348千円	各支店で30回 作物別に19回 PR資材の製作 —

販売店巡回によるPR活動と新たな販売に向けた取り組み

卸売市場を通じて販売される農産物においては、産地と消費地との情報共有が大切です。

そのため、卸売市場やJA淡路日の出農産物を販売する小売店との連携を密にするため、市場と小売店等への巡回によるPR活動を行いました。

また、たまねぎ選果施設集約に伴う新たな販売についても、卸売市場および小売店からの情報収集を行い、販売に向けた協力依頼を行いました。



成果指標	平成 29 年度 (実績)	平成 30 年度 (実績)	令和元年度 (計画)
市場・小売店巡回 新たな販売への試み	2 市場・2 小売店 たまねぎ・花卉	3 市場・2 小売店 たまねぎ・いちじく	6 市場・4 小売店 たまねぎ・米 (契約)

コスト低減と継続営農に向けたレンタル農機の充実

農機導入コスト軽減と機械化による省力化を図るため、平成 27 年度から取り組んでいます農機レンタル事業では、野菜栽培用農機とともに、土づくり・ほ場管理に活用する農機を新たに導入しました。

たまねぎ選果施設再編により取り扱う、たまねぎ根葉付集荷に向けた農機具、育苗施設再編による野菜苗の供給拡大に向けた秋冬作野菜用農機の充実を図ります。



成果指標	平成 29 年度 (実績)	平成 30 年度 (実績)	令和元年度 (計画)
取扱機種 導入機種	12 機種 玉葱拾取機 1 台増 フレールモア 1 台	15 機種 玉葱剪葉機 2 台増・深耕機 1 台 自走草刈機 1 台・肥料散布 1 台	15 機種 玉葱拾取機 1 台増・玉葱掘取機 1 台増 全自動野菜移植機 1 台増
農協からの助成額	2,435 千円	2,270 千円	—

肥料・農薬・販売資材等の価格対策

原料資材の高騰により、販売資材・肥料・農薬等のコストが増加しています。

JA 淡路日の出では、仕入業者との価格交渉や仕入れにおける入札制を導入し、主要品目の価格据え置きと価格の値下げに取り組みました。

また、予約申込での秋冬作肥料では大口価格の設定、予約水稲肥料農薬では合併 25 周年記念として、奨励商品の設定と特別記念品の提供を行いました。

平成 31 年産米 水稲肥料・農薬注文申込
土づくり資材・水稲肥料

キャンペーンプレゼント

肥料・農薬	プレゼント対象の土づくり資材・水稲肥料
ご注文の方 全員に プレゼント	20,000 円以上 ご注文の方に さらに 100,000 円以上 ご注文の方に追加プレゼント
高級感がある 「合併 25 周年 記念帽子」	暑さ対策帽子 涼かちゃん
高品質な 「SUMURA」	ツムラ R 型チップソー

※ 本キャンペーンは「合併 25 周年」を記念として実施いたします。対象品目は「合併 25 周年」を記念として、価格据え置きと価格の値下げに努めます。また、価格の値下げにより、価格据え置きと価格の値下げに努めます。また、価格の値下げにより、価格据え置きと価格の値下げに努めます。

成果指標	平成 29 年度 (実績)	平成 30 年度 (実績)	令和元年度 (計画)
削減品目	水稲肥料・農薬 (主要品目) 秋冬作野菜 肥料・農薬	価格削減継続実施 ダンボール等の業者交渉と 業者集約等による値上抑制	手数料率の低減 入札制による業者選定 仕入に応じた最小限の改定
農協からの助成額	4,600 千円	5,324 千円	—

集約銘柄による低コスト肥料の提供

近年の肥料原材料高騰による肥料価格の上昇は、資材コストの増加要因となっており、農業経営への圧迫が課題になってきています。

平成 29 年度から取り組んでいます肥料集約銘柄提供は、JAにおいて導入前試験栽培を実施し、生育に関する調査結果をもとに導入を判断し、慣行の栽培レベルを低下することなく低コスト化を図っています。

今後も、主要作物での集約銘柄化をすすめ、農業経営における低コスト化を推進します。



成果指標	平成 29 年度 (実績)	平成 30 年度 (実績)	令和元年度 (計画)
対象作物	水稻肥料 2 品目	水稻土壌改良剤 1 品目	野菜肥料 2 品目
商品名	化成肥料 14-14-14 化成肥料 14-8-8	土力の達人 肥料集約銘柄の試験栽培	(対象) 玉葱高度化成 (対象) 淡路園芸化成

経済施設の機能再編と環境整備

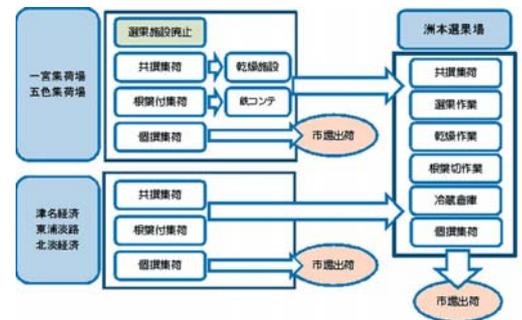
経済施設の効率化と高品質な商品の出荷・提供を行うため、たまねぎ撰果施設集約と育苗センター集約に向けた国庫事業の採択申請を行いました。

たまねぎ撰果施設集約においては、既存施設の有効利用と新たな集荷体制を構築します。

育苗センターの集約では、契約栽培米用苗の供給と野菜苗の供給を行い、周年活用を図ります。

また、夏場の高温等による出荷商品の品質低下を軽減するため、集荷場の環境整備にも取り組みました。

今後、青果市場の集約再編とともに、施設環境整備についても検討をします。



成果指標	平成 29 年度 (実績)	平成 30 年度 (実績)	令和元年度 (計画)
経済施設の効率的再編	農機センター改修 一宮玉葱乾燥庫建替	玉葱撰果施設再編事業申請 育苗センター再編事業申請 津名花卉・果樹集荷場整備	玉葱撰果施設再編事業実施 育苗センター再編事業実施 青果市場の集約再編検討

和牛の増頭と後継牛確保に向けた助成支援

高値が続く和子牛市場ですが、高齢化等により飼育頭数が伸び悩んでいます。

淡路和牛の産地を維持・活性化していくため、能力の高い繁殖和牛増頭対策として、候補牛・準候補牛、認定牛・準認定牛に対し、継続的に助成を行いました。



成果指標	平成 29 年度 (実績)	平成 30 年度 (実績)	令和元年度 (計画)
優良後継牛確保	候補・準候補牛 247 頭 認定・準認定牛 40 頭	候補・準候補牛 277 頭 認定・準認定牛 40 頭	準候補牛 280 頭 準認定牛 40 頭
農協からの助成額	4,940千円	5,540千円	—

農業生産の拡大

土づくりによる良質作物生産に向けて

農産物栽培において、品質と収量は農家所得の増減に大きく関係しています。

良質の作物生産には農家の栽培技術とともに土づくりが大切で、JA淡路日の出では、集積等による大規模経営に取り組む集落営農組織を対象とした「土づくり研修会」を開催しました。

また、研修会ではスマート農業での農業用ドローン展示や土づくりには欠かせない農機具などの展示も行いました。



成果指標	平成 29 年度 (実績)	平成 30 年度 (実績)	令和元年度 (計画)
研修会開催	1 回	1 回	2 回
参集者	集落営農組織	集落営農組織	集落営農組織・担い手農家

契約栽培の推進による計算できる農業経営

専業農家や営農組織、新規就農者に対し、計算できる農業経営の提案として契約栽培による出荷を推進しました。

しかし、キャベツ・白菜については、定植時の台風や長雨により減少しました。

育苗センター再編事業での取り組みとして、多収穫米「どんとこい」による寿司チェーン店との契約出荷に向け関係機関と協議を行いました。



成果指標	平成 29 年度 (実績)	平成 30 年度 (実績)	令和元年度 (計画)
たまねぎ	10.0ha	10.0ha	令和 2 年度からの根葉付出荷を推進
キャベツ・白菜	2.5ha	1.0ha	4.0ha
水 稻	—	—	多収穫米品種による契約栽培を推進

野菜苗の供給による栽培面積の拡大

JA淡路日の出では、野菜苗作りの労力軽減や農作業の繁忙時期などの対応策として、苗作りを委託し供給を行っています。特に、繁忙期の育苗に係る労力確保や冬季の育苗管理は農家においても大きな課題であり、健全苗が必要な時期に必要な量を確保することを目指しています。

今後、育苗センター再編事業による野菜苗供給を行います。

成果指標	平成 29 年度 (実績)	平成 30 年度 (実績)	令和元年度 (計画)
品目数	6 品目	7 品目	7 品目
供給数	1,555 枚	1,640 枚	2,000 枚



地域農業の活性化

淡路島たまねぎの栽培面積拡大と病害対策への支援



平成 28 年度に大発生した「たまねぎべと病」対策として、JAグループからの農業支援基金を活用し、平成 29 年度に引き続き助成を行いました。

また、たまねぎ面積拡大においても、JAグループからの農業支援基金の活用により、農業機械助成および種子助成による拡大に向けた取り組みを行いました。



なお、JAグループによる農業支援基金は最終年となることから、今年度は、次年度から推進する「七宝早生の季節限定商品化」に向けた種子助成を計画しています。

成果指標	平成 29 年度 (実績)	平成 30 年度 (実績)	令和元年度 (計画)
玉葱機械助成	8 戸 助成額 3,791 千円	10 戸 助成額 4,899 千円	「七宝早生」種子助成
病害対策助成	429 戸 助成額 5,847 千円	249 戸 助成額 908 千円	
たまねぎ種子助成	—	55 戸 助成額 510 千円	

青色申告部会による消費税増税に向けた研修

青色申告部会では部会員が増加し、洲本税務署と部会講師である税理士により、消費税 10% への増税と軽減税率について研修を行いました。

また、確定申告に向けた個別相談会も昨年に引き続き開催し、経理方法や申告書の書き方など、個々の事案にも対応しました。

成果指標	平成 29 年度 (実績)	平成 30 年度 (実績)	令和元年度 (計画)
部会員数	28 名	33 名	40 名
研修会・個別相談会	2 回・4 日間	2 回・4 日間	2 回・5 日間

農業資金調達への支援

JA 淡路日の出では、営農資金や制度資金などの活用支援とともに営農資金に対する借入利子・保証料への助成を昨年に引き続き行いました。

成果指標	平成 29 年度 (実績)	平成 30 年度 (実績)	令和元年度 (計画)
実行額	110,691 千円	90,740 千円	100,000 千円
活用件数	41 件	41 件	50 件
農協からの助成額	1,634 千円	1,689 千円	—



活気あふれる経済事業を目指した「経済店舗コンテスト」



窓口における組合員のみなさまへの充実した対応を図り、お客様満足度を高めるとともに、経済職員の意識向上とチームワーク強化、活気あふれる経済事業を目指し、8月から12月まで「経済店舗コンテスト」を実施しました。

成果指標	平成 29 年度 (実績)	平成 30 年度 (実績)	令和元年度 (計画)
実施状況	—	最優秀：北淡経済センター 優秀：洲本経済課・五色経済課	継続実施

「農」の役割を伝える“食育活動”

自然豊かな淡路島で育まれた農産物を提供することで「食」の美味しさや楽しさを通じ「農」の役割を伝える食育活動において引き続き、洲本市・淡路市の学校給食用に「淡路島たまねぎ」と「淡路島キヌヒカリ」の提供を行いました。



成果指標	平成 29 年度 (実績)	平成 30 年度 (実績)	令和元年度 (計画)
地元農畜産物による食育活動	淡路島たまねぎ 洲本市 264 kg 淡路市 300 kg	淡路島たまねぎ 洲本市 263 kg 淡路市 300 kg	継続実施
	淡路島キヌヒカリ 洲本市 330 kg 淡路市 350 kg	淡路島キヌヒカリ 洲本市 320 kg 淡路市 350 kg	

活躍選手へJA淡路日の出の農畜産物を贈呈



(株)阪神タイガースと共催し、読売ジャイアンツとのファーム交流試合を開催しました。

JA淡路日の出からは、勝利監督や試合で活躍した選手に、特産の淡路ビーフをはじめ新鮮野菜の詰め合わせなどの農畜産物を贈呈しました。

成果指標	平成 29 年度 (実績)	平成 30 年度 (実績)	令和元年度 (計画)
イベント等での農畜産物PR	ウエスタン・リーグ 対 中日ドラゴンズ 淡路ビーフ・淡路島たまねぎ 淡路島キヌヒカリ	ファーム交流試合 対 読売ジャイアンツ 淡路ビーフ・淡路島たまねぎ 淡路島キヌヒカリ 新鮮野菜詰め合わせ	ウエスタン・リーグ 対 広島東洋カープ 淡路ビーフ・淡路島たまねぎ 淡路島キヌヒカリ 御食菜採館野菜詰め合わせ

ラジオCM放送で農畜産物のPR

京阪神を中心に農畜産物の販売拡大を図るため、JA名と農畜産物の知名度を上げる取り組みとして、MBSラジオのベースボールパークを中心に、1年を通じたCM放送を行っています。



また、年間CMとは別にJA淡路日の出の一社提供による試合終了までのCM放送も行いました。

成果指標	平成 29 年度 (実績)	平成 30 年度 (実績)	令和元年度 (計画)
マスメディアの活用による広域的なPR	MBSラジオ CM放送 (20秒) 340本/年	MBSラジオ CM放送 (20秒) 340本/年 1社提供CM放送	継続実施

JAグループによる農畜産物紹介プロジェクトに参加

兵庫県内のJAグループによる県産農畜産物の魅力や取り組みなどを紹介するPR動画が、JR元町駅東口に設置されている大型LEDビジョンで発信されています。

また、JA共済による「地域・農業活性化」情報発信ラジオ・TVについても、生産農家取材による放送が行われました。



成果指標	平成 29 年度 (実績)	平成 30 年度 (実績)	令和元年度 (計画)
情報発信ツールの活用	JAチャンネル兵庫でのPR動画発信	JAチャンネル兵庫でのPR動画発信 「地域・農業活性化」 情報発信ラジオ・TV	継続実施



淡路日の出農業協同組合

〒656-2131 兵庫県淡路市志筑 3112-14

TEL : 0799-62-6200

<https://www.ja-awajihinode.com>

JA淡路日の出では、農業者所得の増大・農業生産の拡大に向け、さまざまな取り組みを行っています。
また、地域（農業）の活性化に向けても、農地保全・新たな産地づくり、農業経営管理支援などにも、
今以上に取り組んで行く予定です。

このような取り組みについては、広報誌「さんらいず」やホームページなどで随時お知らせいたします。

お問合せはJA淡路日の出 各支店経済課まで

洲本支店 経済課	TEL: 22-1122	津名支店 経済センター	TEL: 64-0020
東浦淡路支店 経済課	TEL: 74-3321	北淡支店 経済センター	TEL: 82-1235
一宮支店 経済課	TEL: 85-0180	五色支店 経済課	TEL: 35-0221